

卷之三

（略）

華葛爾德銀合

宜言

28910

資本主義はもはや先達の余地全く無く、將に山崩壞の運命に迫られてゐる。同時に之に意圖すべき、労働階級はその精銳なる陣容を整へ、進んで未だ二に於てフルシニアはその政治的勢力を發揮して反動的な全力をこの無産階級の生は向けてゐる。資本主義の山崩壞は、將に労働階級の一派江カリイ成兒としてゐる。燐然たる曙光は労働階級の前に輝く。江東天、俺達は烈血骨を積んで戰ひ果てた二の戦闘力を駆空、輪換して打倒れんとする資本主義の政黨的城塞に向つて突撃しなければならぬ。敵の權力と対抗して一步も譲らず、肉迫し敵の勢力を壓迫し牽制しその力を奪は收めねども、資本主義の末期に於ける現象は、富の空費による失業者の増出を以て、幾十萬の俺達兄弟を余剰の人間として巷に迷はせ、死刑を以て、